

AmericaFest Info アメリカフェスト、今年は開催なし

嘉手納基地は今年のアメリカフェストは開催しないことを決定しました。部隊の運用スケジュールや予算の都合により開催を見送っています。来年の開催についても未定となっています。

第18航空団広報局



空軍チーム那覇ハーリー本番へ向け、 READY～, GOOO!

那覇ハーリー競漕へ向けて、今年も嘉手納基地空軍部隊の有志による男女各1チームが結成され、毎週懸命に練習に励みました。1月から練習を開始し、月曜日と木曜日の午前5時～6時、火曜日と木曜日の午後5時～6時の週4回走りこみのトレーニングや嘉手納基地内のプールでの練習を続けました。4月17日、24日には、那覇市の泊港で本番に乗船するドラゴンボートに乗りこみ、海上での練習が行われました。スタート、直線コース、ターンにおける櫂のこぎ方、腕の動き、漕ぎ手が一丸となって船を操る技術の難しさを体感しながらも、本番での勝利を目指し意欲をみなぎらせる空軍チームです。空軍は「カデナショーグン」というチーム名で毎年出場します。ハーリー競争の結果は、次号に掲載します。

PART I

空軍チーム那覇ハーリーへ
「My Okinawa」写真コンテスト
ネイティブ・アシスタント派遣事業
第18兵站即応中隊ボランティア

PART II

文化の架け橋—Bridging Cultures
嘉手納RAPCON業務移管式
下士官学校



(写真上 4点、嘉手納基地広報局：崎浜秀昭撮影)

(米空軍：シェイソン・レイク二等軍曹撮影)

「My Okinawa」写真コンテスト

第18航空団広報局

●
2010年3月、外務省沖縄事務所主催による写真コンテスト及び展示会が開催されました。在沖米軍人、軍属、その家族を対象としたコンテストで「My Okinawa」というテーマで募集され、沖縄の人々や伝統文化、歴史などに触れ理解を深めることを趣旨として開催されました。外務省によりますと、米軍関係者21名から計158点の



「美ら島賞」ウォーカー二等軍曹



「かりゆし賞」キッチン大尉



「かりゆし賞」ペダーセンさん

応募があったということで、入賞した13名(14作品)に対する表彰式が3月23日北谷町内で行われ、受賞者、その家族、また米軍関係者が多数出席しました。

入賞した13名のうち、3名が空軍関係者で、第18医療運用中隊所属のケルビー・ウォーカー2等軍曹が「美ら島賞(2位)」を受賞しました。これまで一度も写真コンテストに応募したことのないウォーカー2曹は、奥さんに強く勧められて今回応募したそうで「このような賞を受け、とても嬉しく思います。この機会を提供してくれた外務省沖縄事務所そして関係者の皆様に感謝致します」と受賞の挨拶を述べました。「ガーディアン(保護者)」と題名の付いた作品は、父親が息子を後方から影に入っている場面を撮ったものでした。

また、「かりゆし賞」として9名が入賞し、空軍では第909空中給油中隊所属のラリー・キッチン大尉とニッキー・ペダーセンさんが受賞しました。キッチン大尉の写真は、美ら海水族館で二人の娘と姪を撮影したもので「沖縄での勤務滞在がどれだけ幸運な事なのかを



写真上：ウォーカー二等軍曹

写真下：左、ペダーセンさん、中央は、キッチン大尉の代理でキッチン夫人

思い出せるように、ふだんから沖縄の写真を撮っています」と話してくれました。ニッキー・ペダーセンさんは空軍人の奥様で、「この大好きな沖縄を大好きな写真に残したいと思い応募しました。5歳になる息子と一緒にビーチに行った際、偶然に出会った日本人の若者と一緒に撮った写真が今回入賞したんです」とうれしそうに話しました。

講評では受賞者全員の写真が紹介され、受賞者同士も祝福し合いました。受賞者には副賞として紅型小物やかりゆしウェアなどが贈られ、表彰式後のレセプションでは琉球舞踊も披露され、出席者らにとって沖縄の伝統芸能にも触れる素晴らしい機会となりました。



(写真提供：外務省沖縄事務所)

WE ❤ OKINAWA!

● 平成21年度 ●

ネイティブ・アシスタント派遣事業



第18航空団広報局



在沖米軍が協力して行われているネイティブ・アシスタント派遣事業（21年度主管運営は沖縄県教育庁・中頭教育事務所）が昨年度で10周年

を迎えました。本事業に参加する嘉手納空軍基地では、空軍所属の軍人やその家族がボランティアとして近隣の小学校を訪れ、英語の授業のお手伝いをする活動を継続して行なっています。昨年度の事業の様子をお伝えします。

どの学校も教える科目は英語ですが、学校によって教える学年が違うため授業の内容もそれぞれ特色のあるものとなりました。1・2年生を教えた北美小学校（沖縄市）では、生徒たちがアメリカ人の英語の発音や文化に触ることで、英語に興味を持つきっかけを作ることが一番の目的でした。英語で数字、色、動物の名前などを学び、たくさんの歌や踊り、ゲームを取り入れました。



3・4年生を教えた高原小学校（沖縄市）では英語による様々な単語を使った会話の練習や、学んだ単語を使って遊ぶベースボールゲームなどを教室で行ないました。こちらも、生徒たちが実際に使える英単語を学ぶことで、英語への関心を高めてもらうのが目的でした。



4・5・6年生の英語クラブに参加した北玉小学校（北谷町）ではアメリカ人ボランティアとクリスマスカードの作成をしたり、アクセサリーを作ったりと、一緒に行なう作業を通して英語のコミュニケーション能力を伸ばすことに力を入れました。

昨年度の参加ボランティア延べ人数は、15回の授業を行なった北美小学校で230人、14回授業のあった高原小学校で148人、7回クラブ活動に参加した北玉小学校33人と、合計411人となりました。各学校とも、10月のハロウィーンにはボランティア達が仮装をしてお菓子を配り、1月には日本の「福笑い」を英語でやるなど、アメリカと日本、両方の季節の行事を授業に取り入れました。

去った3月5日、北美小学校、高原小学校にて、授業に積極的に参加し活躍したボランティアへの感謝状贈呈式が行なわれました。1年生と2年生全員が広場に集まり贈呈式が行われた北美小学校では、子供たちからの歌のプレゼントに加え、日本語と英語による感謝の挨拶がありました。子供たちから感謝状と手作りのメダルを贈呈されたボランティアたちは、1つ1つのメダルに書かれた子供たちからのメッセージに感動していました。平良好光（たいらよしみつ）教頭先生は「授業を通して、生徒たちがアメリカの文化や英語というものを身近に感じるようになりました。」と挨拶の中で述べ、ボランティアとして授業に何度も参加したシエラ・ビートンさんは「一年間とても楽しかったです。私たちが日本の文化や言葉を学ぶ良い機会になりました。生徒の皆さんと一緒にクリスマスの飾りを作り、英語でフルーツバスケットのゲームをして遊び、すばらしい時間を過ごすことが出来ました。」と感謝の気持ちを伝えました。

このプログラムは無報酬で行われ、仕事のあるボランティアは、学校訪問のある時間、上司の許可や休暇をもらい参加しています。ボランティアらは「参加してとても良かった。次の勤務地に転勤になるまで、沖縄でこのボランティア活動を是非続けたい」と口々に語っていました。



(写真提供：第18兵站即応中隊)

第18兵站即応中隊ボランティア、 老人ホーム「いえしま」に再度訪問



(Illustration by Banji)

第18航空団広報局

2010年4月17日、嘉手納基地第18兵站即応中隊のボランティア20名は伊江島にある特別養護老人ホーム「いえしま」を訪ねました。昨年12月の『クリスマス訪問』以来2度目の訪問です。前回同様のボランティアたちで、今回は室内の窓拭きや芝刈りを中心とした清掃活動です。清掃後は、ホームに滞在するお年寄り40名にタオルセット、そしてデイケアを利用されているお年寄り35名にバナナブレッドを贈りました。第18兵站即応中隊隊員・家族は今回の伊江島訪問にかかる経費を捻出するため、基地内でホットドック売りをして資金を調達したとのことです。

12月に訪問したボランティアを覚えているお年寄りの方もいて「また来てくれてありがとうね」「また会えて嬉しいよ」とボランティアにやさしく声を掛ける姿がありました。訪問に同行した第18兵站即応中隊司令官のダグラス・ディカーソン中佐は「沖縄に勤務している間に地元の方々、そして文化に触れて理解することはとても貴重なことだと考えているので、隊員たちには沖縄のコミュニティーと接する機会ができるだけ作ってほしいと思っています。老人ホーム『いえしま』の方々がまた受け入れてくれるのであれば、ぜひ来たいものです」と再々度の訪問に意欲的でした。

また、偶然にも訪問したその日は、有名な伊江島のユリ祭りの開催初日ということで、老人ホーム職員の方に、祭り会場まで案内して頂きました。真っ白に広がるユリ庭園と、公園から見える絶景の青い海を眺めることができました。ボランティア達は清掃活動後の清々しい気分で、伊江島の自然をも満喫し、あじいさん、おばあさんたちの笑顔をおみやげにフェリーで帰途につきました。

18 LRS VOLUNTEERING in IEJIMA
17 APRIL 2010

